

景清外傳

二編

五

13
2891
10



門へ13
2891
巻 10

外傳松の操後編卷之五

東都

絳山戲編

昭和九年七月三日 晴末



馬ヶ嶺小勇夫首と盗む
木曾山に忠良主を思はむ

且説其時系清の身と起しく曲者と捜索と去向知とされぬ梅間乃燈
をえ出しく自近き枯木と拾ひ集りて正し火の火を移し火氣のこゝろ
残る所の袖と熟看ハ大威徳の梵字あり系清不空密梵字ハ故人
道との縁てより大威徳天と信じぬめて何るに照らすをにぬく
愛ちくぢふものとしが必ぢころ梵字とありやとての事爾も我父正清
大人ハ平家一の先輩ちぢが梵字と免ことしてささけハ屋島の合戦と
最難の陣とぞひぬ自らぬ子持ホものハ梵字と袖にやぬ我をけり

景書後編卷之五

重傷痛と負ひ戰場へ望まざりしが父と弟兄人の討死とまきのひぬこといひ
 明らけ居たりしが今夜けふぬ袖と見つけたる父や兄人の存命居る事
 事ゆゑある事なき事にて誤るは主家の仇と報りやとをばはつてもその人の
 何ふ事思ひ居るやん何事とこふ遠くたる行きの袖の主こそ尋ね問ひ
 して人のいとせよふにけ入山山中みえと澄りてそあざりやと兎や用おもひ
 たりしち秋夜長しと云なづ山端もむむみえとけふの山路みあは
 どのもの里近き地方なれば山樵の見むやと問ふとよとせを頼み
 尚も深山みえり入るは後の人とも尋んとやうく社と立出て深山のま
 かりしらまよりの森内知らざるにけふの道の結たる山とこみあり
 かとみ或る暮かづらみえさざら高き垣み攀のり或る木根を借るる
 深山溪間み下りなると行程二里はりの歩るに身体骨をこるる

後入空しうありしや只ある溪み下りし懸て待てりたる干飯を
 出し溪水にひいてこぼれ流るる暫時のちも寝をこし休み居る知みけ
 谷間の細流み一つの盃流しませり氣清不潔こそみあはげ熱くとも
 えるに目今酒を飲しとおろし酒氣馥郁と香りるをみゆる深山の奥
 なる人信がこそ盃のこみ流出るありやは後の人なとけ要に思ひ居る
 も知るしう何事と尋ねたりやとく流み流るる瀬り行るる又下りたり
 みしと地開けるみみ出しけふの柴門ありしとこみ人ああり
 してと静らみき門の下に陣の家知の光をみとけみゆる深山よ又の別ぬ
 清らうに艶るる少女の目今水と汲んとく柴の屑をおし用をよおし
 清らうとて髪をみたるおのちとく髪み家程よまきりな氣清りとてをえ
 入跡絶へけ山中み行むる世と違へぬのう爾らとて山樵樵師よとの

の根み梅どうら。さぬづうの又んづうのり。まゆ今へ詮くさく。爾やどにゆへ
 のふらうと。主の眠醒ちりせ。命の旨と告げうんと。家程み入り。つら福あり
 て。まゝ老女の立出く。這程み入り。いふんやと。各内みつと。景清の道う
 脱いぐ。静くと。お程み通り。くそのなと。せむ。青るふ家のかり。あるに。まゆ
 せ。体みと。山位み。いゆのつら。ど。文机の上。に。何書。うら。うら。積まり
 一方の程。まゆ。糸竹の器。懸並。く。あり。つら。め。この。奈何と。いふ。知み。紙門
 か。一。開。き。立。出。る。漢。子。あり。糸。清。こ。と。い。ふ。望。ま。え。る。み。豈。料。る。ご。み。兄。乃。忠。光
 寛。く。と。し。く。出。来。る。に。こ。と。そ。の。奈。何。兄。人。み。う。と。い。ふ。彼。方。の。ま。ま。と。互。に
 驚。く。べ。う。り。み。く。遊。時。言。結。め。な。り。う。ら。が。糸。清。言。結。と。い。う。ら。お。ん。ま。正
 ま。う。討。死。と。い。ひ。及。び。い。が。奈。何。し。く。け。不。忍。に。い。君。び。ゆ。み。ご。や。某。り。ま。ま。檀。浦
 の。合。戦。み。の。手。場。と。負。ひ。く。起。は。れ。ば。き。戦。場。み。後。に。一。衣。自。言。と。あ。り。て

此の。内。使。せん。と。い。ひ。一。平。家。の。一。門。君。を。と。も。或。は。討。て。入。水。と。い。ふ。又
 生。捕。ら。し。め。く。た。し。ぶ。も。あ。り。く。平。家。の。親。族。一。人。と。い。ふ。生。と。全。か。さ。る。と。い。ふ。
 と。い。ふ。夢。を。見。さ。し。お。恨。む。誰。あ。り。と。主。家。の。お。み。仇。と。報。ん。糸。を。傷。み。み。り。と。
 生。送。り。こ。そ。ま。ま。と。不。自。の。身。み。つ。と。い。ふ。と。も。君。父。の。仇。の。類。類。を。一。右。刀
 あり。と。怨。ま。ん。と。疵。の。念。ある。と。待。う。移。り。今。ま。ま。に。赴。く。途。あり。不。忍。見。人
 み。還。余。こ。そ。恨。け。は。一。門。の。お。り。世。の。ま。み。く。ま。も。及。べ。り。又。忠。清。入。る。と。い
 と。兄。位。忠。の。内。牙。の。果。い。ふ。あ。り。ゆ。と。い。ふ。う。ら。い。笑。み。ま。あ。く。こ。そ。ゆ。め。と。い。ふ。と。い
 け。さ。る。あ。ら。う。結。り。ゆ。ら。い。お。み。仇。と。同。く。に。忠。光。涙。ぐ。も。鬼。角。の。回。る。あ。ら。う
 しが。あ。ら。う。涙。と。か。拭。ひ。ま。さ。り。足。下。の。父。兄。の。下。知。り。て。あ。り。て。う。痛。い。と。い
 父。忠。清。入。道。と。い。ふ。今。春。檀。浦。の。戦。み。今。か。う。と。や。お。か。が。一。けん。ま。ま。と。返。け。め。ひ
 主。家。の。運。命。既。み。返。り。の。な。も。い。ふ。と。い。ふ。成。り。ん。あ。り。一。平。家。の。一。門。一。討。み

亡びて後裔と断ん絶しとす。故三位中納言。北公建六代は茶々
 平家嫡子ふかふかとあり。今郡小倉山の林兼普満谷の北大受寺ふ忍びて
 おんまよとよとてゆ木入奉養し。け戦場と免と出近路を傷みしうりく。
 忍び居る系法とお後りく六代は茶と誘引しうりうあしん。その末
 山のまゆの忍び再び代み出しまりう。平家の後裔とありしむべし。我
 輩はありせむ刃と種さてもける。因果と人のと多ともの。ゆ日との知らぬ
 老の刃あはばゆ木託し。おき。あ。今日御免く討死とて。旧恩と泉下に
 報ひまりうとあり。父が最忠の言詰と必と志とを兄弟三人と合して
 忠義と劬と命すへい。うと奈何忠義もむべとく。老しる父と只一人
 死ぬと覚悟と極のふき戦場み出する。後ひ初んとをけとど。父乃
 大車と赴する。入る孝の子あはし。ことゆふく。永く宣旨せん。とぞと。

怒り何と詮まじく泣く。父の命み後ひ兄弟力を揃く。戦場と逃さ出る
 折う。兄經忠の流矢ふまふと射さる。矢ぬふまも俱に討死せん。と
 殆ど怪極し。爾にこの父の命空しうせん。孝あり孫。見下と譲り
 免の用もせん。とるもの。とと。これ父入道の故のため。に。置とあり。あ
 よし。びみん坐みあり。忍びく敷と慕ひ初。宣旨あり。び。と。たみ大受と
 強んと。初まじく。より。う。を。使と。び。う。ち。に。今。年。の。五。月。十。日。に。折。小。路
 川。ふ。み。し。て。裁。ち。希。後。房。み。斬。る。と。せ。め。ひ。あ。し。と。結。る。と。あ。り。て。系。法
 へ。忍。み。あ。の。ま。の。無。く。て。不。免。の。後。み。咽。び。つ。身。を。動。し。て。後。さ。け。る。
 ち。光。の。後。中。言。詰。あ。く。あ。り。つ。が。誓。く。あ。り。し。う。り。ひ。る。る。見。下。が
 嘆。爾。と。こ。な。が。ら。ん。と。静。め。く。赤。が。今。年。の。二。と。あ。め。ん。し。て。一。の。父。の。失
 の。ん。び。ふ。く。見。下。に。見。ま。く。父。の。遺。言。を。告。げ。し。六。代。は。茶。と。あ。し。て。父。乃



まこめ
馬籠の山中
景清兄の隠す

あふ
陣

選志を遂んつと再び前は美馳下り。且下み見えんとせしうど何方へ
まひりしうま向を知らず。今方みく怒み上とて北条討政公達と投へ既
美ひまひりしうま。傳へてくも口々にこそ奈何せんときも千思万思
とつぐらさぬ。高雄の文見上人の孫余敷み斜あらしきとて思ふとさ
て。世み赦さず一人あるが。容貌離れし見と求むと人の結うとて
よ公達の容貌へ世み類ひあり笑し。かゝりもよとて思ふ。美
なると思ひ付と移さずと高雄み膝り。聖み見茶あまし。公達の
上と細く結り家の命助けさしめり。只殿み嘆かせしう。聖とさ
不便とわづら。美が北条の許み折向公達の命縮むと瓜井日が回し延
めんとやとめひり。目うちには孫余へ族登る。頼朝み見茶あ。公達の
命をまきつみ嘆きとけるに公達の祖父公故小松の内府は地のか
命と重く。頼朝の命を乞うとける昔の好むとや。とて後に上人の
まう。公達の命。悪むささひり。を後まふ建世とや。とて思ひ
爾れども折ておそんめ。武通み疎くあり。徳世のめりあり。と
れ人なる。并る立并る。六とお話。世にも徳國の具場み訪ふ。あ
家みけあみ思。なる。各夜武通と告げ。とて思ふ。とて思ふ。
おる。高雄み還。まひり。人の疑いと建。む。世も上後。其の貌を
てけあみおしせり。とて思ふ。とて思ふ。とて思ふ。とて思ふ。
勅め。さして。爾中うにゆひ。とて思ふ。とて思ふ。とて思ふ。と
て。妻子み捨れ。あま方。申。甲斐あり。て。六代。其の命。ま
と。公の。あま。とて思ふ。とて思ふ。とて思ふ。とて思ふ。
公が。おし。ひみ。とて思ふ。とて思ふ。とて思ふ。とて思ふ。

其仲のけふみ起り。海小相撞の後。余へ。あまのりめ。秘のまきり。うたは。氏に白
 法の。國の。ふるに。ま。く。けふみ。思ひ。ふ。ぞ。忠先。完。亦。と。ち。ち。笑。ひ。余。又。の。余
 と。直。果。と。より。あ。く。と。御。廻。一。平。家。思。敵。の。もの。と。結。ひ。兵。と。起。き。助。と。せ。ん
 み。ま。な。城。と。せ。ん。ま。る。地。方。へ。平。家。の。旧。屋。あ。る。が。あ。み。伊。勢。國。に。立。敷。へ。く
 國。人。を。殺。ら。し。め。と。死。み。被。殺。み。赴。ん。と。て。乾。屎。山。に。運。ぶ。ふ。一。人。の。道。士。に
 遭。ひ。ま。り。道。士。を。殺。と。相。く。く。ま。汝。心。原。の。志。を。存。し。却。主。の。爲。み。苦。む。ま。を
 爾。と。し。ゆ。命。運。說。に。冬。ゆ。ま。宿。志。と。果。と。て。能。ま。ま。ぐ。あ。け。が。忠。臣。あ。る。と。を
 憐。れ。教。授。せ。ん。と。一。樹。あ。り。か。よ。の。信。濃。本。原。の。山。中。に。強。信。で。爾。の。法。を
 修。む。す。け。一。万。ふ。一。つ。の。志。業。と。果。と。入。る。ゆ。あ。ら。ん。と。奇。術。乃。修。法。を。教。へ
 たり。を。法。外。愛。不。測。み。く。く。む。あ。あ。ふ。ふ。と。の。る。ゆ。と。ば。自。在。あ。ら。ん。と。い。ふ。て。一
 み。一。年。と。思。ひ。信。し。く。教。ふ。ま。う。け。山。中。み。移。住。り。り。そ。ゆ。く。修。法。と

けふ昔類豪が行ひ。如み。く。何。ま。軍。陣。み。望。む。に。敵。大。軍。に。く。囲。む
 くの。免。れ。出。る。と。自。在。な。り。又。堅。城。み。く。防。ぐ。て。い。う。み。嚴。あり。と。い。ふ
 と。も。思。ひ。入。る。と。志。易。一。爾。あ。い。ま。ぐ。做。ら。さ。る。一。奇。術。と。そ。あ。る。あ。は。そ。そ
 本。河。術。と。云。み。敵。の。主。將。の。首。と。取。て。囊。中。の。物。と。し。る。よ。り。易。く。け。術。と
 一。も。修。一。は。あ。ら。報。期。と。討。ん。と。も。と。殺。す。り。松。易。く。近。日。只。敵。術。と。修
 せ。り。その。容。易。く。な。法。み。く。百。日。が。間。み。百。人。の。首。と。斬。く。皆。國。必。軍。の。首
 あり。岸。の。社。み。と。思。ひ。供。へ。り。既。み。百。日。の。行。と。果。と。と。ま。り。を。術。思。ち。み。あ。ら。り
 爾。る。に。此。夜。五。十。日。み。當。り。馬。を。殺。す。み。首。と。獲。く。岸。社。へ。煮。く。如。に。茶。に。法。を
 授。け。つ。る。道。士。忽。然。と。う。く。途。み。途。へ。り。道。士。を。殺。に。示。く。云。今。夜。馬。を。殺。す
 み。が。骨。肉。み。煮。く。と。あ。ら。ん。表。を。被。不。み。立。矣。と。示。く。の。人。が。立。矣。馬。を。殺
 す。み。け。ま。う。に。獲。つ。る。首。の。妨。あ。ら。ん。皆。財。の。ち。山。井。の。表。下。に。埋。め。た。る。

再び往還不出く結てども一人の人だもえとあかんに更園ぬむ修法の
時刻の後ろと多し再び山神の意み戻り華表の下み垣を首と捜み
あること。こゝろ悪敷の令らひみやらふても尋ねると山神乃痴の程
捜きみ如法園長のところへ何の居ると知るに社壇の隅に至り
てみどりの捜きよ一人の漢子に探ありを人膝下に一りの首を後居
たり必定け人み獲つる首を奪みに疑り何の料みもせんゑにハ用
ある首あるとやう奪止あんと。とて言結をうけとて奪ひかへ
去んとらるぬ彼奴も同じく奪と出さど。ま行袖をおゆるを引戻されと
振切らうとみ袖へちぎりとく双方へ卧替びがそがまみ奴を散と
弛しく嵐社み首と納め。昨夜の夢み果たり。首をえらとておろし
ん氣うとく彼道士の今夜骨肉みをこいと告み。てん奴をどと。始

よりの道士の言結。空し。とてあつらひ。今夜み返り美ひ。とて不
ゆめさうありと。今日中み。疑ひ。が。今日。足下をけよ。相
つるめて。世を。昨夜。山。首。奪。み。け。人。足下
ありつる。と。言。結。に。言。結。言。と。ま。り。ち。宣。と。か。く。昨。夜。の。人。み。ま。み。と。く。と。く
あり。知。ら。ず。る。み。と。く。兄。人。と。山。城。渠。城。の。敷。と。思。ひ。物。奪。ふ。と。み。料。み。と。に
人の命をとりとらひ極悪の盗人ありと天性の怒氣血ち登り。根とく
とて瓜刺なる袖とも知らず。根と。終み引断る。失けるふぞ。針
か。け。て。ま。に。送。る。行。の。袖。と。孰。く。着。る。み。入。道。と。の。大。み。そ。と。ひ。め。の
大威徳の梵字のや。ありける。み。そ。と。平。あ。の。衣。の。け。山。中。み。見。び
居る。渠。城。強。盗。あ。と。み。と。床。と。く。山。深。く。ち。つ。入。り。甲。斐。あり
て不義由兄弟のけ。み。對面。と。と。へ。結。と。と。み。結。を。め。の。と。

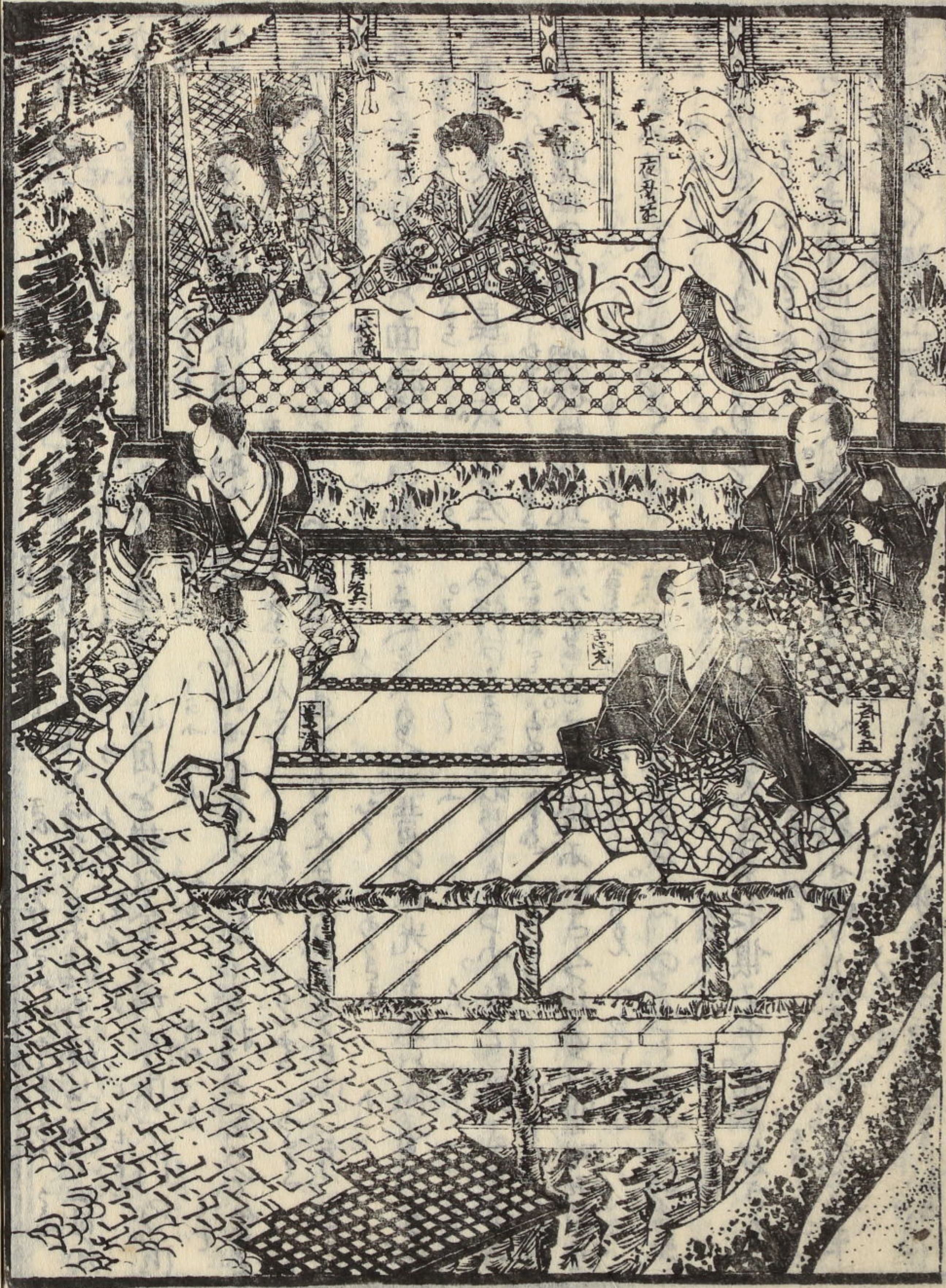
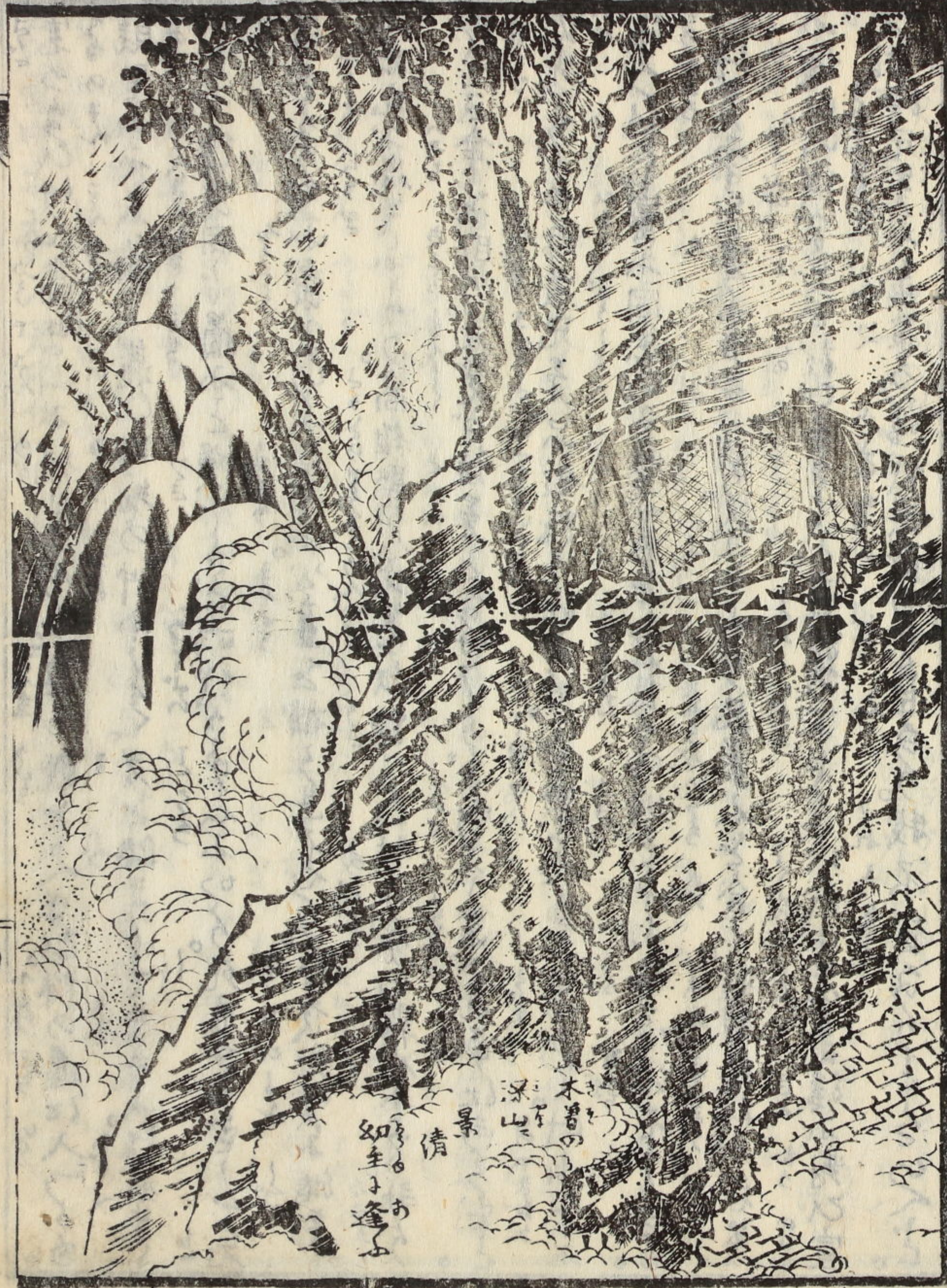
東海道後編

昨夜断りたる一袖を出しそ兄の忠光示して嘆み存びけり。左右兼清
忠光小對み今兄人の心柄鏡や水色に涙あふり。百折千磨を凌ぐ川松殿の
公事と九死の中より援出し。恙なく世中存命さすまつこころと大
くころゆるぬ忠義あるに高後盤のそのちりには終骨細身しめくことと兼
あどの對ひと日と問くく。痛むく。爾はあはれ所幻術と修鍊し
ぬまきちるひいと悼傷も罪料なき。多くの人を生命とせしめしそをぬ
はむ。故の入道相國よの不良の行状多うる。なほ要報子孫必速して一門
既ぬ絶人とせむ。前車の戒あるふいふ。後世の助ありとむ。強忍不笑の
拳動く。終み奇術と説るとも。天人とのまこと。必宿志を果すの坊
あく。往事。終み甲斐なき。今日より爾やうのふと止め。正義とめし
旧好の恩宿ののり。終みひのひ。義なき。起しぬ。ひぬ。智と利運わらごうと

敬の心に対するとも。天下こそは、赤誠、忠義の美名と永き世に送らへ、こ
ハ必定あり。今兼が言結と結と、幻術とめし、義なき。とむ。邪ハ正小
猪とといふこととく。る。あはれ。包ら。き。又とせしと。君父の名まくと下三人こと
境ふく。し。く。え。る。か。か。中。あ。ら。は。ん。み。逆。も。と。も。を。ん。ん。が。兄。弟。體。は。後
とも。ハ。悔。と。防。ぐ。と。の。唐。結。め。ひ。や。と。み。の。底。を。假。し。く。練。め。ト。と。あり
ける。あ。が。忠。光。何。と。も。回。想。あり。く。一。俯。き。を。居。り。け。り。が。あ。あ。あ。あ。あ。り
つる。ハ。口。下。が。練。爾。を。と。ま。う。く。あ。み。か。た。報。報。あり。彼。人。を。運。目。出。ち。く。く。を
才。流。人。ふ。あり。く。と。今日。本。の。勤。進。補。使。様。金。殿。と。作。と。く。世。の。間。の。こと。何
と。ゆ。ん。の。ま。う。に。ね。り。を。大。小。名。伏。後。と。と。た。と。孫。景。が。才。あり。く。孟。墳。が
勇。と。ま。り。と。も。あ。ら。う。假。む。く。る。奴。治。ん。よ。り。く。奇。術。と。施。し。く。干。支。と。用。と
君。父。の。首。と。容易。討。は。る。行。名。と。後。世。必。送。と。も。兼。が。故。の。は。あ。く。口。又。ん

且鏡曾付と歴く。兄の忠光出来り。景清も對ひく。さりける。北方公を
 小見下がる。心はひとし。小孤忠をそと感し。もひ。北見まを免し。あふと
 云ゆ果ぬ。一室の紙門。さとお。用く。小景清の。驚い。く。さ。北
 方夜丹也。景清の。衣。小頼と。多。念。珠。つ。ま。ぐ。く。上座に在。と。を。次。め
 公。建。六。代。出。云。二。年。と。織。田。の。直。衣。さ。つ。く。海。と。勾。み。つ。り。く。座。の。の。ま。た
 小。不。并。者。兄。弟。と。姑。女。房。に。又。人。附。け。る。景。清。急。ぎ。平。伏。を。付。小。夜。丹。也。
 と。景。清。と。は。流。ぐ。く。涙。と。そ。ろ。く。と。流。し。も。ひ。や。よ。ゆ。の。景。清。や。さ。る。毒。永
 二。年。の。秋。一。門。お。ち。の。付。沖。由。後。以。西。五。み。下。り。后。の。ら。ひ。あ。つ。小。お。ん。さ。り
 一。ふ。今。日。不。圖。け。小。對。面。あ。さ。さ。り。一。門。の。人。の。み。ま。さ。つ。ち。く。と。く。執
 一。さ。よ。御。下。沖。が。忠。義。の。存。今。小。始。ぬ。り。ま。ぐ。く。世。の。あ。さ。り。平。家。の。ま。ま。に
 毒。子。と。并。て。御。對。せん。と。千。辛。万。苦。な。さ。す。と。今。忠。光。が。物。鏡。小。毒。一。く

つ。く。感。じ。ら。る。小。ね。あ。ま。り。の。あ。り。か。と。命。と。つ。く。景。清。の。涙。と。流。ぐ。首。の
 の。り。夜。丹。也。公。を。直。衣。執。ぐ。と。さ。く。泣。目。と。拂。ひ。命。の。如。く。一。門。の。所。
 佐。と。く。西。海。の。波。清。小。船。と。流。ぐ。と。昨日。今。日。と。あ。ひ。つ。か。指。と。屈。め。て。集。ふ
 是。バ。又。年。あ。や。及。び。み。ん。を。向。へ。北方。公。を。建。と。の。え。な。め。ら。せ。と。今日。は。二。方。と。え
 ち。あ。ら。ま。小。北。方。の。面。瘦。の。ひ。顔。と。さ。く。多。の。へ。昔。の。北。光。景。清。の。似。も。つ。く。と。
 公。を。建。へ。又。舞。生。長。の。へ。え。差。さ。る。終。の。年。と。舞。生。も。ち。小。智。り。果。つ。る。世。の
 一。つ。及。と。懐。回。の。涙。小。咽。び。け。り。北方。公。を。建。も。は。小。涙。か。さ。く。と。も。ひ。漸。時。に。言。語
 あ。く。お。せ。ぐ。が。あ。つ。く。北方。公。を。建。と。拭。ひ。宣。り。と。一。門。の。人。を。殺。さ。し。ひ。ら。ま。さ
 帝。の。位。を。建。と。く。あ。つ。く。北方。公。を。建。と。も。お。俱。く。て。あ。小。毒。一。く。ひ
 一。つ。と。我。夫。中。將。殿。の。ま。は。奴。家。を。の。代。と。の。殺。小。毒。一。の。ひ。く。く。さ。り。平
 家。利。運。み。く。既。不。止。ぶ。さ。り。あ。り。つ。る。付。今。の。ま。る。平。家。の。運。の。ほ。く。と。お。あ。く



定めてひけん高野山たけのやまに脱走だつそうのありて、たけのやまに遁入とんにゅうすべし。佛ほとけの道みちに入いつても
 魁野山すゑのやまに遁入とんにゅうすべし。遂についに那智なちの沖おきにさぐ。才さいと流ながまきして失うせぬ。極ごく盡じんす
 けしう侍さむらい皆みな同どうく道みちふと嘆なげしうと六代むつだいらふんふかり。死しゆゆらざりて免あま
 用もちはらうらち。糸いと糸いととりの武士ぶしふ公こう直ちかと捕とららるる。昏くら夜や悲かな嘆なげふ流ながる
 小松こまつ光みつが忠ちゅう義ぎふより。高たか雄ゆう聖せい人文ぶん義ぎ流りゅう終しゆうる。彼か由ゆ房ぼうの覆おほ花はなふより助すけり
 かく。今いま命いのちを助すけり。文ぶん義ぎが彼か弟あにとるをたつらうと。かく。果はるるにあらうと。と
 小松こまつ光みつが。弁べん者しや兄あに弟あに只ただ嚴げん練れんにより。出いせ。出いせ。と。止とりて。け山中やまなかに
 陰かげらひく。密ひそか同志どうしのものどもと。おれ。おれ。の。時ときぞう。おれ。に。け。を。う。ら。せ。も。
 け地方ちほうあり。さう。さう。あり。今日けふよりの。兄あに弟あにふと合あひ。程ほど嬰えい祥しやう白はくが忠ちゅう義ぎ
 不ふ做ぞひ六代むつだいぐと。ま。ま。と。言こと終しゆうの下したより。六代むつだいに。糸いと糸いと流りゅう終しゆうる。お。對たいひ。宣のたま
 つと。兄あに弟あにふと。おれ。おれ。の。時ときぞう。おれ。に。け。を。う。ら。せ。も。
 我われ不ふ肖せうありと。さ。ら。し。く。と。

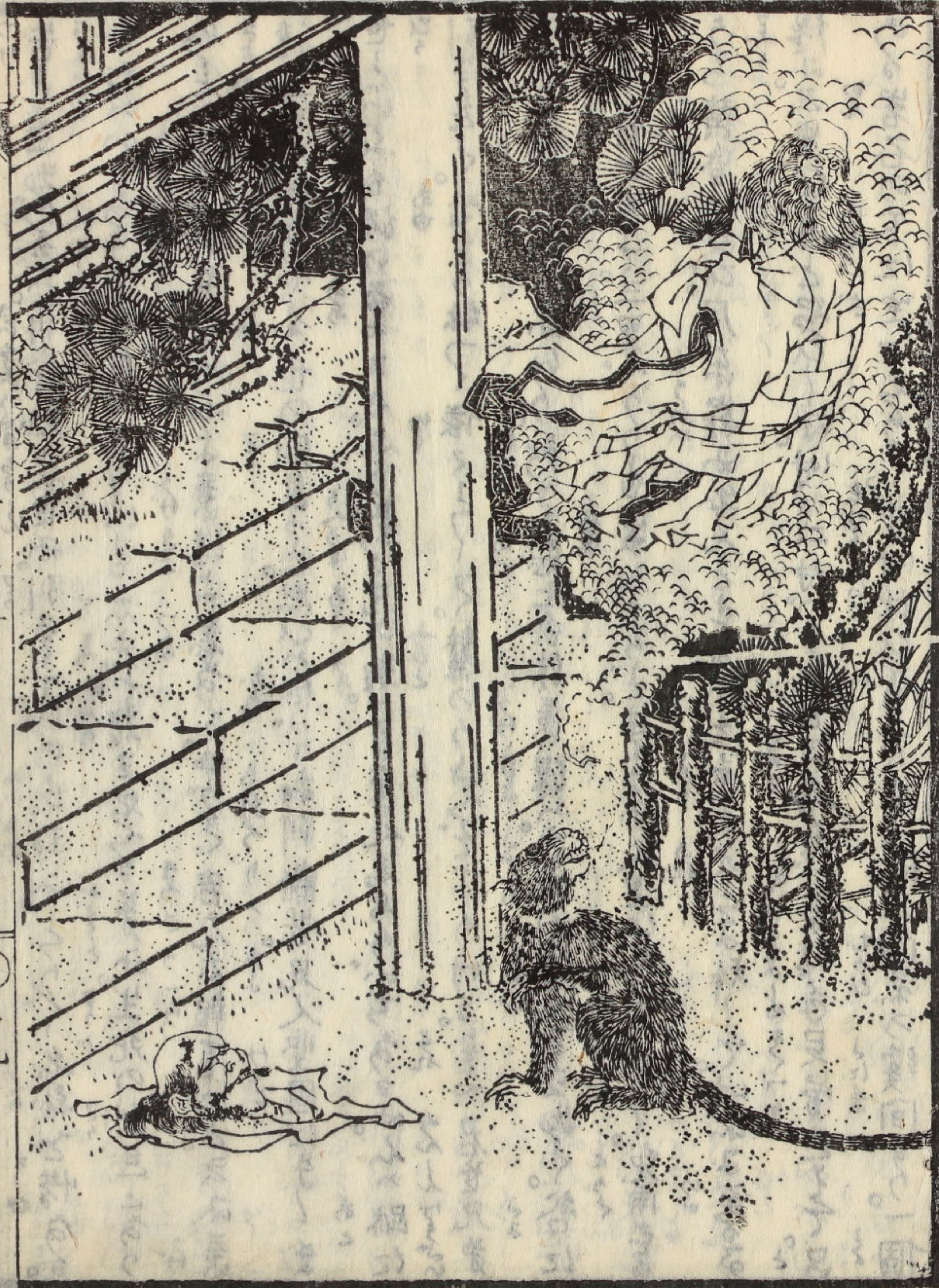
平へい将しやう軍ぐん負ふ盛せいより。十代じゅうだいふあ。る。嬌せうくあり。糸いと糸いと流りゅう終しゆうる。お。對たいひ。宣のたま
 多おほひる。兄あに弟あにふと。おれ。おれ。の。時ときぞう。おれ。に。け。を。う。ら。せ。も。
 二人ふたり肱ひで股またの臣おみとある。け。お。胡こい。ふ。英えい雄ゆうあり。と。の。平へいを。再また負ふ盛せいひ。ひ。一
 用もち運うんの時ときに。君きみ臣おみとも。今いまの。憂うれと。昔むかしは。結むすん。是こゝに。豈あまた快たげよう。と。さ。ら。し。く。と。
 微い通とほふ。志しを。ま。と。遂ついにざる。け。お。自おの害がいと。あ。り。て。忠ちゅう孝こうの。名なと。浮う世せいふ。ま。ま。と。
 べ。と。ま。の。德とく用もちの。身みを。う。ら。ふ。道みち程ほどと。せ。ら。る。言ことふ。お。ま。ま。と。糸いと糸いと流りゅう終しゆうる。お。對たいひ。宣のたま
 一ひと。糸いと糸いと流りゅう終しゆうる。お。對たいひ。宣のたま
 夢ゆめあり。梅うめ檀たんに。二ふた。さ。み。一ひと。く。芳かほば。と。天あま晴はれ平へい家いえ嬌せうく。の。由ゆ公こう直ちかの。由ゆ志しを。ま。
 感かん入いる。有あら。う。ら。ひ。を。お。り。は。彼かを。お。し。ら。う。と。忠ちゅう義ぎと。勵をりま。さ。る。と。お。れ。お。れ。の。時ときぞう。おれ。に。け。を。う。ら。せ。も。
 と。兄あにの。幼こ術じゆつを。癖くせきと。お。ひ。つ。く。は。け。山中やまなかに。と。足あしと。止とり。て。多おほく。猜さいふ。と。後のち
 会あひ。の。營えい中ちゆうに。忍しのび。入いり。君きみの。仇あひだを。お。り。て。一ひと。を。刃やいばあり。と。然しかんと。改かめ。ん。と。笑わらふ。

うと公と世の成志業とて妙に祖父母重盛公の弟のりぬ英主乃器
 備りおしせ今日よりけふ止り心の限り忠を尽す。夫馬の常に代り
 兄人宛め公を執事と云うて并後兄弟みうつ對し最おより
 見下ホと云るといふも公をふりませぬのち今日よりけふ止り
 さり。見下ホが忠義のちと感するみあまりあり。今日よりけふ止り
 とらぬ。見下ホと鉄鼓奉公とせんやとよけ刃の上と公を運ぶ引替
 のひねと教さすも并後又宜ふや及ぶ公を由茶のてつく宜へた
 見下が言授とていへ。さそはへしうあやとて。こみ公を運ぶ
 系法が中をやりぬまびとこみ持する。君にける笑並の金に
 土器と持する。今の下より并後六鉦子上口とりそん。公を
 茶みこし居ゆとて。土器とり上。三夜もぐて。いさ一教と的

景清はらをゆひ。に有く。景清は同く三夜傾けり。夜中
 前いひけ。ふ一口の刀とり出ひ。是は平家の重宝。瘧丸と云短刀
 今日有少。景清が前ふ。並の。お。教。こ
 冥加。此瘧丸。小鳥。同。平家の宝。雨ふ。刀
 似。其の初。瘧丸。名付。平家。重。ん。心。付。ん
 賜。性。不。富。せ。あ。れ。夜。中。茶。並。勢。朝。身
 の光。高。運。出。人。ご。ろ。を。縁。氏。の。燕。子。あ。り。一
 流。人。あ。り。生。涯。を。老。累。あ。り。一。回
 院。直。ち。あ。り。て。お。の。懸。念。あ。り。あ。ら。う。も。勢。ひ。盛。ん。あ。る。平。家。と。容
 易。亡。が。さ。る。人。同。業。と。あ。り。あ。ら。う。を。教。知。を。討。ん。と。さ。る。蟬。蟬。が。交。り。あ
 り。車。に。對。し。異。あ。ら。う。雨。あ。り。人。の。臣。子。と。い。は。れ。を。報。り。ぬ。る。の

此家の宝初めうらうら。いづく時賭工るある。柔うん笑くぬまば如何止
 めのふとの止まるべし。あつと。多ひ格り。元来ふ光の今とて
 蘇む。うもらん。さむ。望ふ。任せる。みそ。柔。結。こよ。あ。く。た。び。く。歌。詠
 舎ふ。赴く。教。訓。を。討ん。こと。豫。多。多。ひ。輝。し。志。来。み。あり。く。く。公。女。や。北
 方の。光。柔。と。又。ま。ら。う。け。ふ。不。足。と。止。ん。と。あ。く。心。動。き。に。北。方。の。命。と
 皆。再。び。心。故。み。還。り。昔。み。務。る。後。石。心。水。火。の。中。と。も。取。つ。く。を。仇。と。教。は。て
 あり。ま。わ。と。り。多。人。の。命。の。け。刃。の。上。の。み。あ。る。空。く。故。の。輪。と。め。の
 命。と。く。く。く。黄。泉。み。踏。み。茶。亡。ぬ。市。一。門。ふ。え。ま。り。て。北。方。は。公。女。の
 智。勇。の。ふ。と。孤。竹。へ。あ。げ。ん。茶。づ。と。よ。と。勇。ま。ば。人。く。た。び。の。な。ら。み。め。た。ら。ん。ら
 女。柔。の。心。弱。く。て。後。丹。は。茶。涙。こ。く。と。も。ひ。つ。あ。ら。う。け。心。柔。の。老。僧。と。世。ま
 討。は。よ。と。後。舎。ふ。赴。う。と。る。ハ。死。後。よ。と。く。思。う。み。柔。し。ま。主。と。念。こ。と。と。勇。ま。

夫ふ光柔。孤るるに。君び。ぬ。良。く。と。よ。と。うち。び。つ。て。が。泣。ぬ。ふ。光。母。又。母。の
 志。を。い。く。と。こ。え。ま。や。し。と。い。ち。ば。一。人。あ。る。弟。の。万。死。の。ち。も。一。生。を。か。り。こ。と
 慈。き。教。也。み。ま。る。一。生。の。別。は。う。と。や。ん。が。名。珍。惜。く。く。泣。く。と。と。い。て。坐
 みの。浮。む。後。と。知。う。せ。と。と。異。う。と。い。く。く。堪。ん。居。る。勇。士。の。公。ぞ。昔。い。け。と。
 六。代。の。茶。と。光。や。柔。結。が。う。ぬ。と。由。見。く。新。が。う。り。忠。美。の。臣。あ。ん。く。
 せ。り。あ。く。柔。の。止。し。天。の。雲。ふ。よ。る。あ。や。と。あ。や。い。ぬ。ん。げ。右。と。く。仇。と。報。ひ
 て。復。古。せん。ハ。笑。来。あ。く。と。を。細。く。坐。涙。は。く。と。の。人。の。体。と。柔。結。ハ。忠。美。の。こ。る。
 み。ら。ん。この。名。跡。と。多。く。あ。ら。う。く。拘。苦。と。思。ひ。つ。あ。や。あ。て。ハ。あ。ら。う。り
 こと。の。と。と。と。と。励。ま。う。と。今。や。平。家。の。大。お。の。命。と。画。示。く。柔。結。ハ。敵。を
 討。ん。門。出。ま。い。に。く。祝。詠。ハ。宣。う。く。あ。ら。う。く。あ。ら。う。く。あ。ら。う。く。あ。ら。う。く。あ。ら。う。く。
 心。ち。吉。た。右。報。を。せん。と。さ。ん。く。み。後。の。孟。ま。ん。と。勇。む。み。ぞ。け。不。に。舎。ひ。



景清

多すの社小
景清怪

と見え

つげ 告ぐ立出づる。再會縁忠良。別るての之卦。めとるぐ。名跡を惜む。
公程のうらみ。そとがなりにも。先光の教。さるる。生死の別。とあり。
ぬと。揚と断。多ひら。やよ。素法。の。恙。あ。や。吉。衣。報。て。よ。云。み。素。
法。立。止。り。今。世。の。別。と。と。思。ひ。同。一。お。別。離。若。兄。人。堅。固。に。ま。ま。
せ。と。し。よ。候。の。あ。や。さ。あ。り。假。兄。の。教。と。と。思。ふ。あ。り。が。ち。あ。る。み。ん。跡。に。
ひ。引。と。と。思。ふ。あ。り。松。つ。依。と。と。思。ふ。あ。り。藤。の。う。と。と。思。ふ。あ。り。下。り。け。る。き。や。君。若。兄。弟。
の。永。き。別。と。あり。み。け。り。朽。と。思。ふ。あ。り。七。兵。衛。素。法。の。先。光。の。法。衣。と。立。出。づ。谷。に。
下。り。松。と。攀。て。三。里。づ。り。の。も。ま。ま。と。と。思。ふ。あ。り。さ。う。み。人。里。に。出。る。と。と。思。ふ。あ。り。兎。角。さ。る。
ら。ち。黄。昏。に。及。び。月。东。嶽。み。出。ん。と。と。思。ふ。あ。り。み。と。主。と。兄。と。と。思。ふ。あ。り。拜。して。け。は。ま。至。る。
後。三。里。づ。り。と。思。ひ。一。お。け。り。二。お。け。り。の。ゆ。え。に。素。法。の。只。言。を。と。と。思。ふ。あ。り。
ある。若。石。の。下。に。坐。と。と。思。ふ。あ。り。暫。時。休。ひ。居。り。け。る。時。に。面。茶。の。湯。間。より。一。個。

の。道。士。出。来。せ。り。其。顔。面。赤。く。東。の。工。く。眼。圓。み。て。人。と。射。白。髪。長。く。
生。ひ。く。肩。と。と。思。ひ。虎。懸。た。右。み。多。右。手。み。長。き。杖。を。推。した。る。み。水。晶。
の。玉。珠。と。丸。探。針。と。と。思。ふ。あ。り。歩。ま。せ。る。素。法。の。只。言。を。と。と。思。ふ。あ。り。
め。の。ら。ぬ。彼。み。道。と。同。じ。と。と。思。ふ。あ。り。逆。入。と。と。思。ふ。あ。り。山。に。入。り。山。國。修。行。者。に。
ゆ。が。今。期。を。終。り。終。り。道。法。過。り。ま。め。も。あ。ら。ず。山。途。く。迷。ひ。入。り。里。に。出。づ。
て。途。と。失。ひ。今。み。知。ら。ぬ。道。士。教。へ。ん。と。思。ふ。あ。り。回。り。け。る。道。士。
素。法。の。只。言。を。と。と。思。ふ。あ。り。又。口。に。一。と。何。れ。と。と。思。ふ。あ。り。山。に。入。り。山。國。修。行。者。に。
い。の。山。口。あり。あ。り。め。け。地。方。へ。坂。木。と。と。思。ふ。あ。り。信。濃。國。の。内。あ。り。と。と。思。ふ。あ。り。越。後。み。山。
さ。る。一。日。路。が。な。ど。の。や。あ。ら。ん。と。思。ふ。あ。り。終。り。の。日。路。み。高。嶺。り。あ。る。地。方。あり。彼。不。
み。又。あ。る。一。夜。の。林。の。宿。の。宿。の。社。と。と。思。ふ。あ。り。教。へ。ん。と。思。ふ。あ。り。素。法。の。只。言。を。と。と。思。ふ。あ。り。
く。不。善。く。心。程。み。あ。ら。ず。今。終。り。今。に。至。り。入。途。と。と。思。ふ。あ。り。二。四。里。に。至。り。

丁と且光と素と兄弟あるを知りあふ。是亦丁の不安をよと伺ふ。
 一ノ谷を改め。平家家に御も不縁あり。茲と教朝は流る。世ある。
 伊豫も。仲朝の城内。雨のありと。はらへん。太夫坊。是明が先ふ。
 果めゆ。昔木着。教朝。先丸と。させぬ。ひ。文の師と。教朝。
 ぬ。ぬ。又。二の。武士の。棟梁。と。多。
 あり。平家と。逐走。教朝。易。
 高倉院。高倉院。高倉院。高倉院。
 木着。教朝。高倉院。高倉院。

命と。先。と。兄弟。ある。を知り。あふ。
 一ノ谷。を。改。め。平。家。家。に。御。も。不。縁。あ。り。
 伊。豫。も。仲。朝。の。城。内。雨。の。あ。り。と。
 果。め。ゆ。昔。木。着。教。朝。先。丸。と。
 ぬ。ぬ。又。二。の。武。士。の。棟。梁。と。
 あり。平。家。と。逐。走。教。朝。易。
 高。倉。院。高。倉。院。高。倉。院。高。倉。院。
 木。着。教。朝。高。倉。院。高。倉。院。

あふ。さてこそ。... 景清の... 松の操後編卷之五 終

景清 外傳 松の操後編卷之五 終 大尾

製水處

前川源七郎

大心齋權運北久寶寺 山田目十八番地

